

派遣報告書

平成28年3月31日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員 段塚 廣文



次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1 派遣期間 平成28年3月28日(月)から平成28年3月29日(火)まで
- 2 派遣先 (1) 兵庫県豊岡市 3/28(月) 12:30~13:00 13:30~15:30
豊岡市役所議長・副議長室 宵田商店街振興組合
(2) 兵庫県豊岡市 3/29(火) 10:00~12:00
出石まちづくり公社
- 3 視察議員名 段塚 廣文、福谷 直美、丸田 克孝、藤井 隆弘
- 4 面会者 (1) 兵庫県豊岡市
豊岡市議会議長 椿野仁司氏、副議長 西田まこと氏
宵田商店街振興組合副理事長(兼先宝飾) 兼先正雄氏
豊岡鞆(トヨオカカバンアルチザンアベニュー) 店主
(2) 兵庫県豊岡市
出石まちづくり公社支配人 古田清久氏
- 5 派遣目的 (1) 豊岡市 かばんを活かしたまちづくり事業
(2) 豊岡市 出石まちづくり公社~民活で魅力あるまちづくり
- 6 視察の経過及び感想
別紙 会派くらよしアイズ・倉吉自民共同「行政視察報告書」参照
- 7 添付書類
(1) 面会者名刺一覧
(2) 視察先提供資料

要した経費: 4人合計

56,225 円

会派くらしアイズ・倉吉自民共同「行政視察報告書」

(視察・調査の経過及び感想)

日 時 平成28/3/28(月)～29(火)
議 員 段塚 廣文、福谷 直美、丸田 克孝、
藤井 隆弘

1. 視察・調査の経過及び感想について

(1) 兵庫県豊岡市 3/28(月) 12:30～13:00 13:30～15:30 「豊岡市の概況」について

豊岡市中心にある市役所に到着。真新しい市役所に関心をもち、昼食を市役所内の食堂でとる。明るく広い食堂で声をかける人あり。豊岡市議会の椿原議長で、議長室でお話を伺うこととなった。



豊岡市は、平成17年4月、1市5町(豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町)が合併してできた。面積は698㎏、人口約8万5千人で、かなり広域な自治体である。平成22年7月、中心市街地を構成する商業者や地権者、市民、民間企業などの関係者で「豊岡市中心市街地活性化基本計画策定委員会」を設置し、市として計画を策定した。主な事業は、○情報発信強化事業 ○人材育成事業 ○イベント総合プロデュース事業 ○復興建築や近代化建築活用事業「市役所南庁舎別館等の利活用事業」○かばんを活かしたまちづくり事業「宵田商店街(カバンストリート)空き店舗活用事業」等である。人口減、高齢化など共通する事柄や対応等について意見交換後視察先に向かう。

「かばんを活かしたまちづくり事業」について

宵田商店街(カバンストリート)に移動、宵田商店街振興組合副理事長(兼先宝飾)、兼先正雄氏の出迎えを受ける。前述の通り、「かばんを活かしたまちづくり事業」は、「豊岡市中心市街地活性化事業」の一環であり、この事業は豊岡鞆協会(工業組合、卸商業組合、材料商協同組合)の全面的な協力の下進められている。その中心となるのが、宵田商店街振興組合で、兼先副理事長からお話をお聞きすることが出来た。



宵田商店街は全長200m未満の商店街であるが、「カバンストリート」として知名度も上がり、豊岡鞆を中心として元気なまちづくりを進めている。商店街のコンセプトとしては、「①自分の商売・生活②まちのみんなの商売・生活を考え、③明日への希望が持てるまちにしていく」としている。



「カバンストリート」は、夏期のサンバカーニバルはあったものの、商店街のより継続的な活性化をめざし、青年会議所等と連携しながら2004年から始動した。2005年3月以降、カバンステーションオープン、カバンの自動販売機の設置、商店街の空き店舗の活用等様々な取り組みを行ってきた。「豊岡鞆」の名称が使えない時期もあったため、OEMでの生産を行っていた。それまで年間3・4回の理事会が、週1回は開催した時期もあった。このような活動に対して、県が事業費の3分の2の補助金を2年間、その後、市が3年間の補助事業としたことも重なり、軌道に乗ってきた。



説明・質疑の後、カバンステーション、トヨオカカバンアルチザンアベニュー等を視察、アベニューでは店主よりトヨオカカバンに関する素材・形・今後の方向性などについてお話を伺った。

(2) 兵庫県豊岡市出石町 3/29(火) 10:00~12:00

「出石まちづくり公社～民活で魅力あるまちづくり」について
宿泊先の竹野町から視察先である出石に移動。出石まちづくり公社支配人、古田清久氏の出迎えを受ける。

出石は、「丹波の小京都」と呼ばれる城下町の風情を今に伝え、観光地として有名である。隅櫓、辰鼓楼、家老屋敷等のある内町周辺は特に古い町並みが残っている。また、名物出石皿そばや伝統的工芸品である出石焼きなどの特産品の魅力も合わせて、年間80万人を超える観光客が訪れている。

挨拶の後、古田氏より資料をもとに説明を受ける。その後、質疑を行った。出石まちづくり公社の設立の経緯について、以前は観光協会が観光センターやそば店の経営を行っていたが、平成3年観光協会の独立、法人化の声が高まった。また、出石町では、町民によるまちづくり活動が盛んであり、商工会、観光協会はもとより、「出石城下町を活かす会」「女性まちづくり会議の結成」など町民グループによる調査研究を重ねていた。こうした経過に、町民の活力と発想を活かした第3セクター設立の機運から平成10年6月に「出石まちづくり公社」が設立された。1株5万円による株式会社で、総株数1960株、株主数は339名である。主な株主は、豊岡市(400株)、観光協会(100株)、商工会(60株)で、その他は個人などで総計1400株、9800万円となっている。

事業は、①いずし観光センター売店②出石観光ガイド③ハーブショップ「香りの城」④集合貸店舗「出石びっ蔵」⑤各種イベント参加⑥空き地空き店舗有効活用⑦「大手前駐車場」管理運営⑧いずしトラベルサービス(旅行代理店)⑨芝居小屋出石永楽館⑩旅籠西田屋(町屋を再生した宿泊施設)等である。

従業員は、正社員8人、契約社員3人、パート4人、シルバー人材派遣(駐車場)6人、ガイド3人の合計24人で、年間売上高約2億円、株主への配当も年によって異なるが出資金に対し2%から4%行っているとのことであった。大阪・神戸などからも近く、出石そば・出石焼きといったブランドもあり、民活による効果も出ているが、城之崎温泉(豊岡市)、天橋立(宮津市)等有名な温泉地、観光地が近くにあり、JRが入っていないため車による誘客体制をとらざるを得ないこと、通過型の観光地という位置づけになっていること、高齢化などによる空き家・空き店舗の有効活用が課題ということであった。

その後、古田氏の案内で旅籠西田屋、芝居小屋出石永楽館など説明を受けながら、出石のまちを散策した。まちには大勢の観光客が訪れ、活気があった。

2. 視察・調査を終えて

「視察・調査の経過及び感想について」に載せたことはもちろん、他にも沢山のことを学ばせて頂きました。たまたま居合わせた来訪者に声をかけて、お話を聞かせて頂いた豊岡市議会の椿野議長を含め議会関係者の皆様、年度末の慌ただしい中われわれのために対応して頂いた宵田商店街振興組合副理事長 兼先正雄氏、出石まちづくり公社支配人 古田清久氏をはじめ、到着から出発まで「おもてなし」の心で細やかな心配りをして頂いたことに感謝いたします。

視察を通して本市に還元できることを取り入れ、市民の皆さんにお役に立てるよう精進いたします。ありがとうございました。

